

## 第10回 皇帝ネロの黙示録 – ローマ大火と市街地改造

悪名高き皇帝ネロの時代、ローマは「永遠の都」と呼ばれた。カエサル亡き後にその養子オクタヴィアヌスが前27年にアウグストゥス（元首）となり、ローマの市街地は順次整備されて、壮麗な神殿がフォロ・ロマーノに立ち並ぶ。地中海をとりまく属国や属州から富と人がローマ市街地に集まり、1500ヘクタールほどしかない狭いローマ市域に100万人もの人が住んでいたという。これを可能にしたのがローマの誇るインフラである道路と水道設備であった。前30年に皇帝直属のローマ属州となったエジプトからは穀物が安定的に供給されたので、ローマ市民は無償で食糧を得ることができた。「永遠の都」は「パンとサーカス」の時代を迎えていた。



古代ローマを彷彿とさせる現代のローマ市街地（1993年撮影）

ローマ市街地には6～7階建ての共同住宅（インストラ）が建ち並び、狭い道、常時の工事現場、大きな荷車、葬式の行列、コンロから出る煙、と喧噪と雑踏にまみれた居住環境だったらしい。哲学者セネカは「ありとあらゆる種類の人間が善行にせよ悪事にせよ高値をつけてくれる都に押し寄せた」と母親宛の手紙に記している。

こういう過密な市街地に地震や火事が発生すればどうなるか、誰もが危惧していただろう。紀元62年に発生した地震はイタリア南部のカンパニア地方だった。現地を視察した皇帝はポンペイを居住地として放棄するように勧告しているが、幸いにポンペイはローマほど過密ではなかったため、自力で再建の道を歩んでいた。このときの皇帝がネロで、アウグストゥスからかぞえて5代目にあたる。

ところがその2年後に、ローマで大規模な火災が発生した。火災は9日間続き、市域の大部分を焼き尽くしたという。当時のインストラは4階以上は木造で、床や屋根も木造だったこと、インストラ同士の間隔が狭く、なかには壁を共有している建物もあって延焼しやすかったのだ。

火災後、ネロはすぐに陣頭指揮で住民の救助と復興にとりかかった。木造やアドベ造の禁止、17メートル以上の高層住宅禁止など、建築制限を設けて市街地の改造を行う。そして、市域の1/3にもおよぶ範囲を独占して黄金宮殿と呼ばれる皇居を建設した。この宮殿はネロの失脚後に地上部が取り壊され、地下に埋められて観光で見ることができないが、コンクリート材料を用いた新しい建設技術と特異な構造形式で建てられたという。

この頃、ローマ都市では切石積み建築よりも作業が速くて楽な、セメントを大量に用いる単純な技術が採用されるようになっていた。コンクリートの起源は砂、石灰、小石を水で混ぜ合わせただけの単純なものだったが、その後、石灰の代わりにポゾラン（火山灰）やすりつぶしたレンガを使うようになった。板材の型枠に流し込んで固めるコンクリートは扱いやすく耐水性もあるので、ローマ人はそれまで不可能だった規模のせり持ちやドームを備えた大建築物を安価に建設できるようになった。型枠を取り外して石、大理石、モザイク、しっくい、レンガを貼り付ければ仕上がりも美しくなる。黄金宮殿の各室のコンクリート壁面は多くの絵画で豊かに装飾されていた。16世紀に発見されたとき、洞窟と化していた廃墟の中にあったので、「洞窟風」（グロテスク）と呼ばれ、ラファエロがヴァチカン回廊のフレスコ画の手本としたものだ。グロテスクの意味が転じて、「奇怪なもの」「過剰装飾」になったのは、安直なコンクリート材料の壁面とネロが愛したヘレニズム芸術への偏見からきているのだろうか。

古代ローマはその長い歴史において著名な人物を多く輩出したが、皇帝ネロほど悪評を浴びた人物はいない。ネロは弱冠16歳で皇帝になり、30歳の時反乱に遭って自決を強いられた。その悪評は母親殺しや二人の妻殺しのゆえではない。古今東西を問わず、乱世の支配者は皆同じようにして権力をつかんだ。ネロが悪人だとされるのは、ローマ大火の罪をキリスト教徒にかぶせ、ローマ皇帝としてはじめて公式に迫害・弾圧したからだという。使徒ペテロもこのとき磔刑に遭っている。どうやら中世のキリスト教支配時代にネロの悪い評価が定着したらしい。歴史的評価というものは時と場合により大きく変わるものだ。しかし起源64年のローマ大火はキリスト教徒にとって、まさに大震災、黙示録（アポカリプス）の世界だったに違いない。



フォロ・ロマーノ（1993年撮影）

（参考図書）

- 秀村欽二「ネロ-暴君誕生の条件」（中公新書）1967年
- タキトゥス（国原吉之助訳）「年代記-ティベリウス帝からネロ帝へ」（岩波文庫）1981年
- スエトニウス（国原吉之助訳）「ローマ皇帝伝（下）」（岩波文庫）1986年
- D.H.ロレンス（福田恒存訳）「黙示録論」（ちくま学芸文庫）2004年
- R.Draper “ Rethinking NERO “ (National Geographic) Sept. 2014